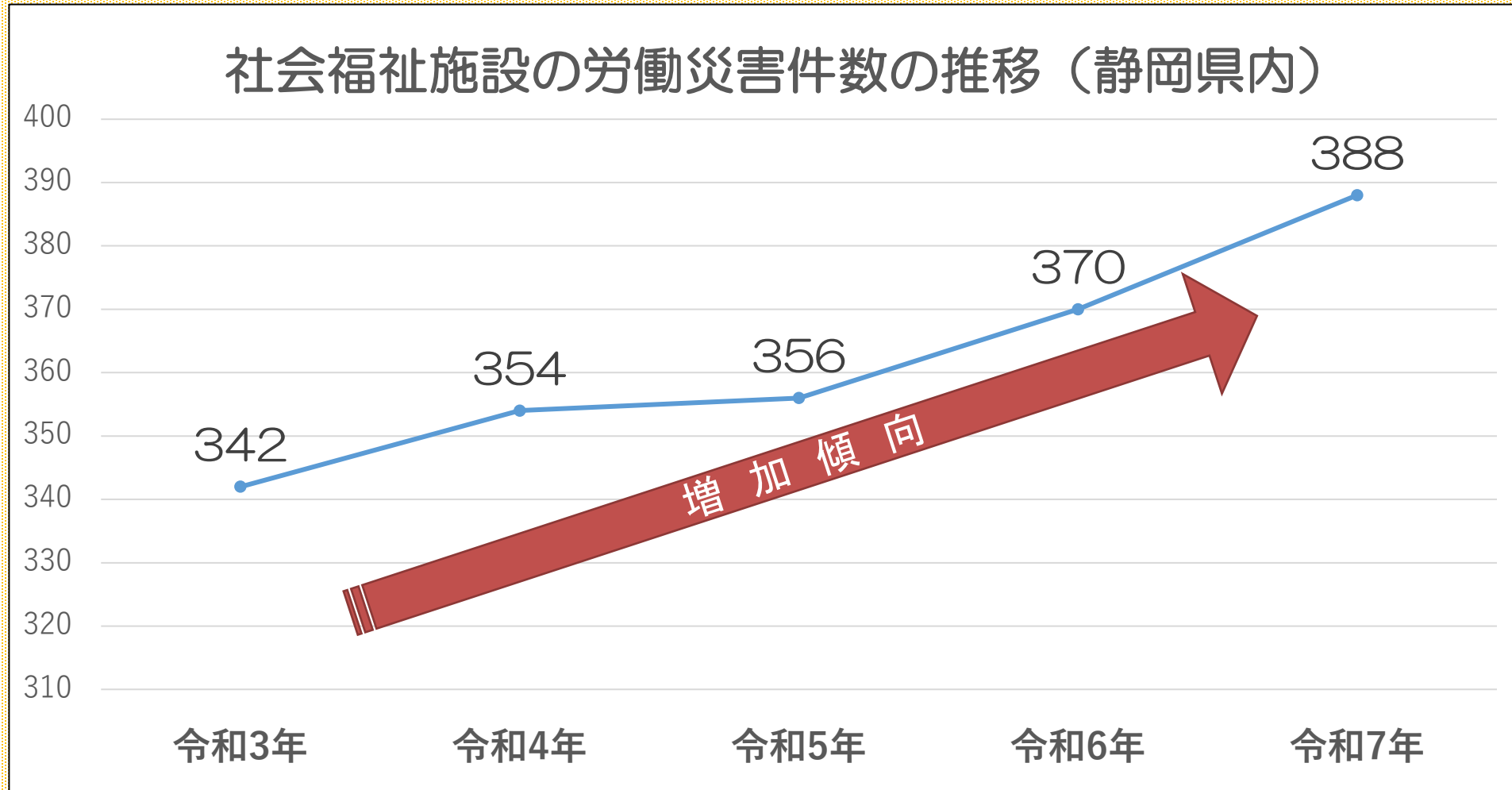


社会福祉施設の 労働災害防止について



静岡労働基準監督署 安全衛生課

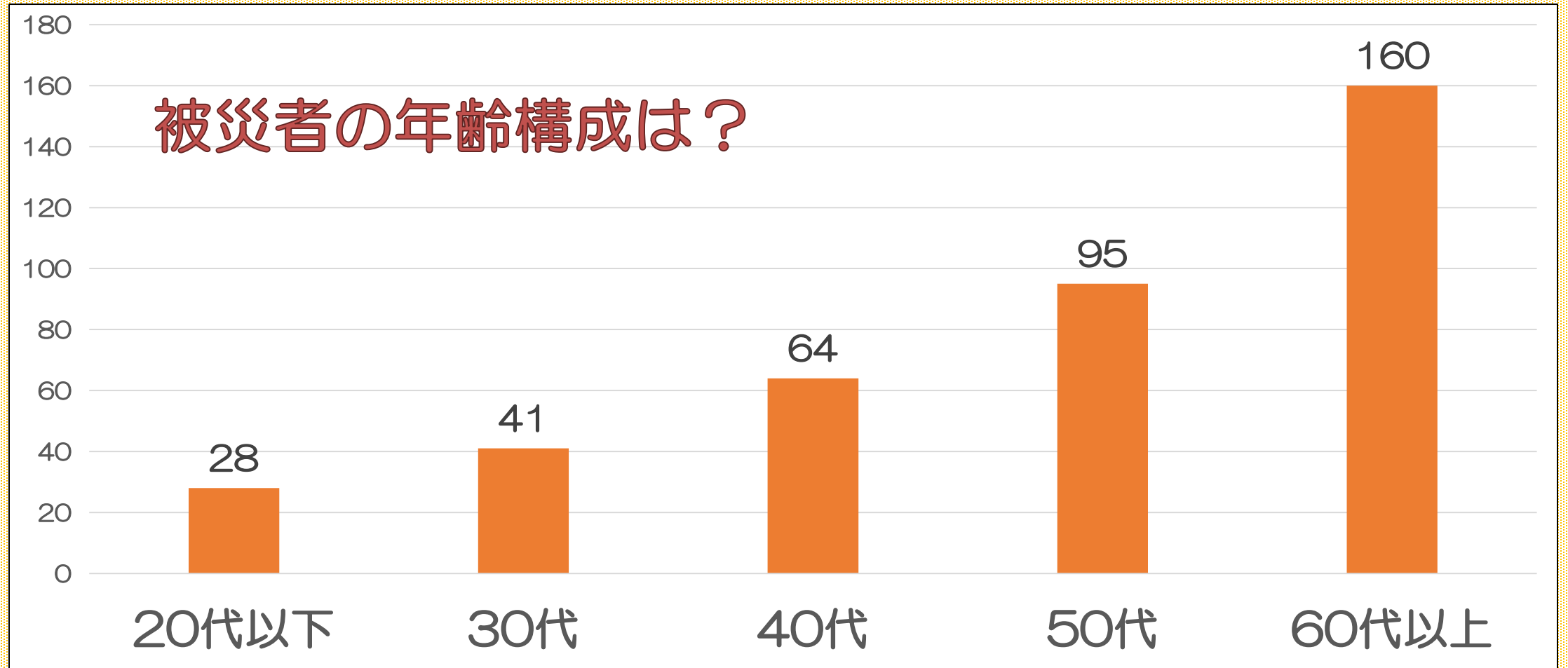
労働災害が急増しています



出典元：労働者死傷病報告

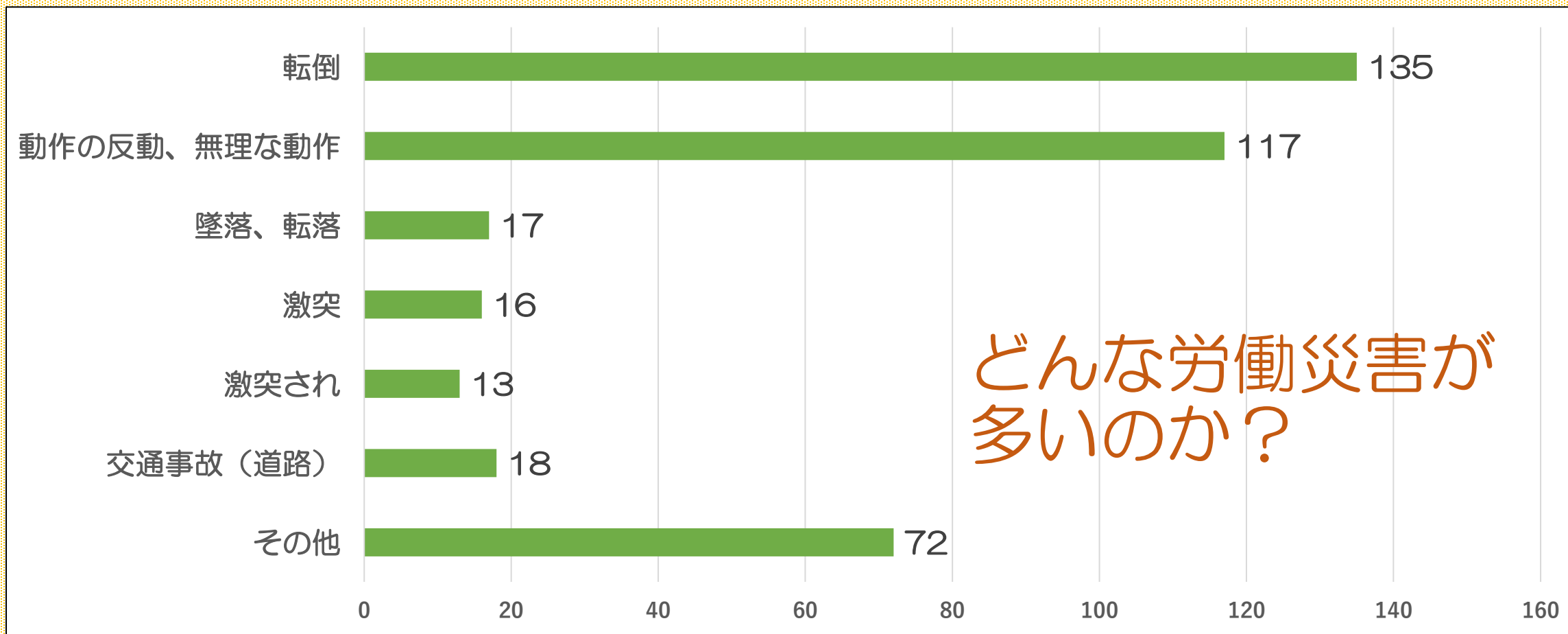
※新型コロナウイルス感染症を除いた休業4日以上の件数

社会福祉施設労働災害発生件数（令和7年）



年代が上がるほど労働災害が増加する

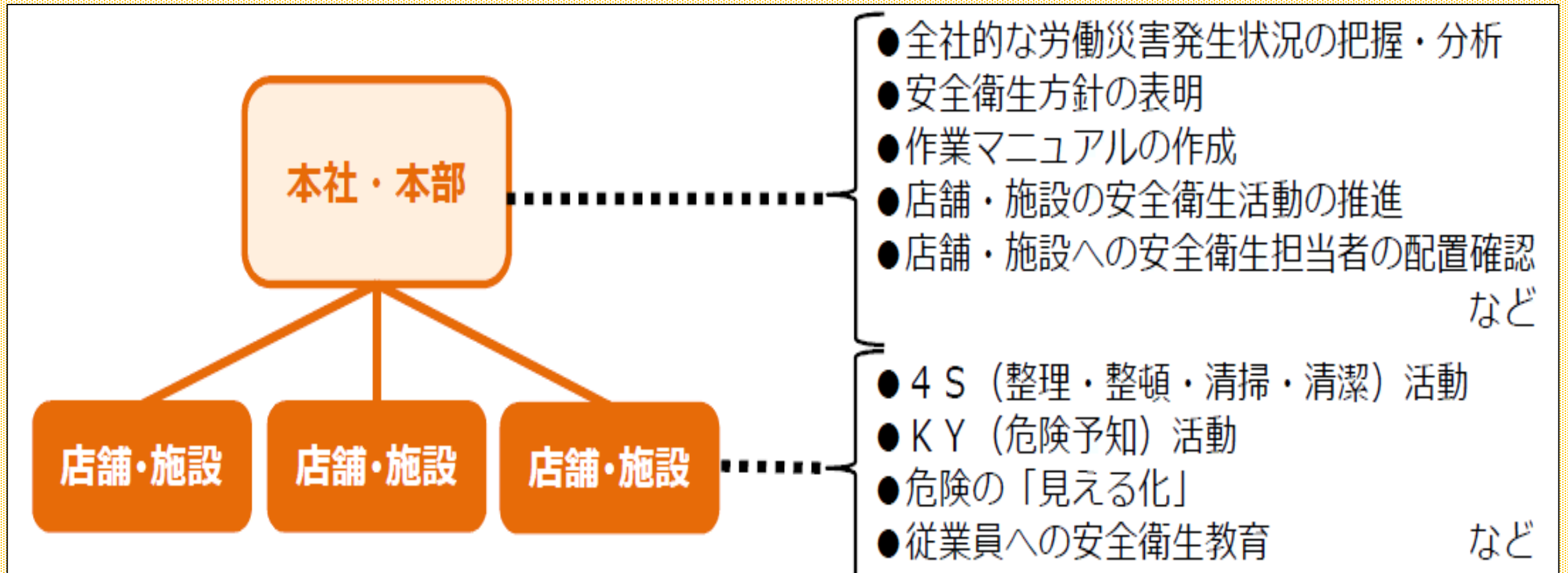
事故の型別労働災害発生件数（令和7年）



どんな労働災害が多いのか？

転倒と動作の反動等（腰痛や捻挫など）が圧倒的に多い

労働災害を防止するための取り組みとは？



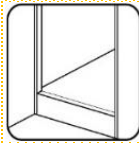
転倒災害を防止しましょう

① 「つまづき」による転倒災害の原因と対策



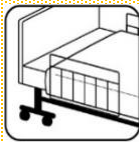
何もないところにつまずいて転倒、足がもつれて転倒

- ☞ 転倒や怪我をしにくい**身体づくり**のための運動プログラム等の導入
- ☞ **走らせない、急がせない仕組みづくり**



通路の段差につまずいて転倒

- ☞ 事業場内の通路の段差の解消、「見える化」
- ☞ 送迎先・訪問先での段差等による転倒防止の注意喚起



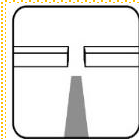
設備、家具などに足を引っかけて転倒

- ☞ 設備、家具等の角の「見える化」



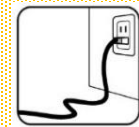
利用者の車椅子、シルバーカー、杖などにつまずいて転倒

- ☞ 介助の周辺動作のときも焦らせない
- ☞ 介助のあとは“一呼吸置いて”から別の作業へ



作業場や通路以外の障害物（車止めなど）につまずいて転倒

- ☞ 適切な通路の設定
- ☞ 敷地内駐車場の車止めの「見える化」



コードなどにつまずいて転倒

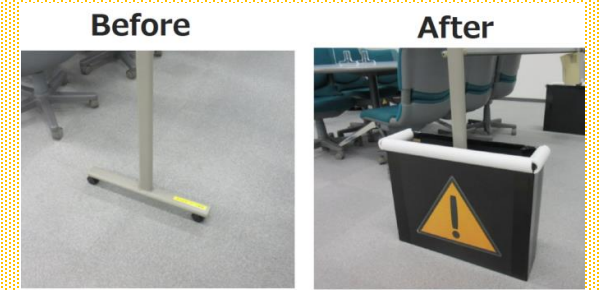
- ☞ 労働者や利用者の転倒原因とならないよう、電気コード等の引き回しのルールを設定し、労働者に徹底させる



職場3分
エクササイズ



転びの予防 体力チェック
中央労働災害防止協会



転倒災害を防止しましょう

②「滑り」による転倒災害の原因と対策



凍結した通路等で滑って転倒

☞従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マットを設置する



浴室等の水場で滑って転倒

- ☞防滑床材の導入、摩耗している場合は施工し直す
- ☞滑りにくい履き物を使用させる
- ☞脱衣所等隣接エリアまで濡れないよう処置



こぼれていた水、洗剤、油等（人為的なもの）により滑って転倒

☞水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。
（清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してからの開放）



雨で濡れた通路等で滑って転倒

- ☞雨天時に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う
- ☞送迎・訪問先での濡れた場所での転倒防止の注意喚起

※高年齢労働者の労働災害防止のために設備改善等を行う場合、中小企業事業者は「エイジフレンドリー補助金」の対象となります。

エイジフレンドリー補助金
についてはこちら



静岡労働局では「ぬかづけ運動」を実施しています

このリーフレットは、静岡労働局HPからダウンロードできます。

「静岡労働局 ぬかづけ運動」で検索！

職場の安全対策を！ 静岡労働局 転倒災害を防ぎましょう

「静岡労働局 ぬかづけ運動」実施中！

転倒災害を防止しよう！

ぬれた場所

かいだん

かたづけ

毎日の運動

床の水たまりや水、油、粉類など**危険な状態**を見つけ、対策を講じていますか？

階段や段差のある場所など、転倒**リスクの高い箇所**に対して対策を講じていますか？

身の回りの整理整頓など、日々、作業者への**意識づけ**、教育などを行っていますか？

ストレッチや転倒予防体操など**運動**を行って、転倒しにくい体づくりに努めましょう！

静岡県内における労働災害（令和7年 4,499件）

転倒 1,201件

転倒全体の 26.7%

その他 1,459件

墜落・転落 660件

はさまれ・巻き込まれ 545件

動作の反動・無理な動作 634件



静岡県内では、平成21(2009)年から連続し、転倒災害が「事故の型」ワーストワンとなっています。転倒災害を少しでも減らすため「静岡労働局ぬかづけ運動」を展開しています。

静岡県内における令和7年の転倒災害1,201件（確定値）の内訳

50代以上が78%以上

63%が休業1月以上

60代 387件

70代 220件

40代 132件

50代 333件

20代 58件

30代 71件

3月～ 147件

1～3月 445件

2週～1月 198件

4日～1週 49件

1週～2週 101件

3月～ 22件

4日～1週 23件

1～3月 102件

2週～1月 67件

1週～2週 47件

転倒災害の78%以上が50代以上で、50代以上の63%が休業1月以上となっています。

フレイル予防の3つのポイント

栄養 食事の改善

フレイル予防 身体活動

社会参加 社会参加

健康状態	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
あなたの現在の健康状態はいかがですか	よい	まあよい	ふつう	よくない	悪い	非常に悪い									
毎日の生活に満足していますか	はい	いいえ													
1日3食きちんと食べていますか	はい	いいえ													
学年齢に比べて重いものが食べにくくなりましたか	いいえ	はい													
お茶や汁物などで水分をとっていますか	はい	いいえ													
6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	いいえ	はい													
以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと感じますか	いいえ	はい													
この1年間に転んだことがありますか	いいえ	はい													
ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか	はい	いいえ													
周りの人から「いつも同じことを聞く」などの数回れがあると言われていますか	いいえ	はい													
今日が何月何日かわからない時がありますか	いいえ	はい													
あなたほどほこを働きますか	いいえ	はい													
週に1回以上は外出していますか	はい	いいえ													
みだんから家族や友人と付き合いがありますか	はい	いいえ													
仲間が悪いときに、身近に相談できる人がいますか	はい	いいえ													

10月10日は『転倒予防』の日

中央労働災害防止協会「STOP! 転倒災害プロジェクト」
<https://www.lisha.or.jp/campaign/tentou/index.html>

一般社団法人 日本転倒予防学会 <http://www.tentouyobou.jp/>

※転倒リスクの高い箇所をわかりやすく「ぬかづけ」と標識したのは「日本転倒予防学会」の理事長 武藤浩昭氏です。

静岡労働局労働基準部健康安全課 静岡市葵区追手町9-50 静岡地方合同庁舎3階 ☎054-254-6314 [R8.4]

静岡労働局と大塚製薬は包括連携協定を締結し、働く皆様の健康増進を推進しています。

腰痛予防対策に関する教材・資料

厚生労働省のHP「**保健衛生業における腰痛の予防**」から、→の資料などがダウンロードできます。

その他の教材・資料も揃っておりますので是非ご確認ください。

「**保健衛生業 腰痛予防**」で検索！

腰痛予防対策に関する教材・資料

- 第三次産業における腰痛予防対策推進事業
事業場におけるノーリフト関連の取り組みや指針の実施状況に係る実態調査
PDF  CLICK
- 腰痛を防ぐ職場の好事例集
腰への負担を減らした事例
PDF  CLICK
- 介護福祉施設における腰痛予防の取り組み事例集
腰痛予防の具体的な進め方
PDF  CLICK
- 介護サービス事業の生産性向上に資するガイドライン
ノーリフトの取り組み事例 ①
PDF  CLICK
- 看護業務の効率化先進事例アワード
ノーリフトの取り組み事例 ②
WEB 
- 最新技術を駆使した労働災害防止対策事例集
ノーリフトの取り組み事例 ③
PDF 

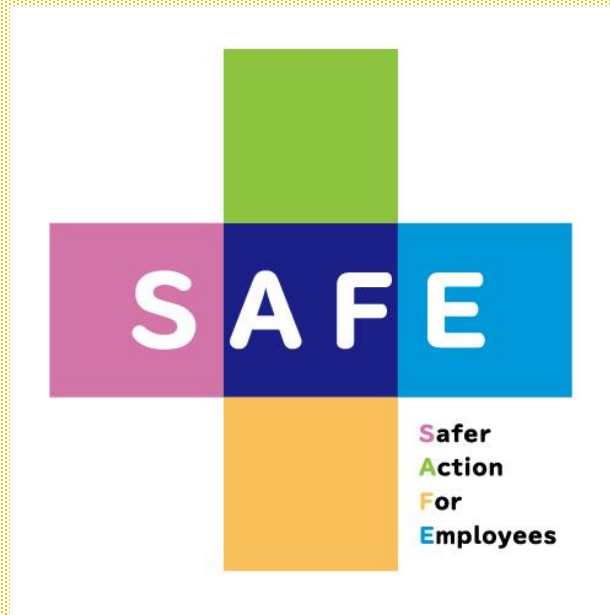
腰痛を防ぐ
職場の事例集
厚生労働省 中央労働災害防止協会

静岡労働局における施策について

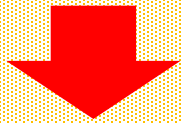
◎静岡県介護施設SAFE協議会の設置

近年、社会福祉施設において、労働災害が増加傾向にあり、その状況に歯止めをかけるべく、令和4年度より、県内の介護施設を運営する法人や、静岡県をはじめとした地方公共団体等を構成員としたSAFE協議会を設置し、協議を行い、周知・啓発資料の作成等の活動を進めています。

※「SAFE」とはSafer Action For Employees（従業員の幸せのための安全アクション）を推進する活動体の名称です。



★静岡県介護施設SAFE協議会の活動等については、こちら



https://jsite.mhlw.go.jp/shizuoka-roudoukyoku/newpage_00408.html



令和7年度に開催した協議会の様子



まとめ

- 社会福祉施設では、労働災害が急増しています。
本部においては運営施設の労働災害の状況把握をお願いします。
- 施設においては、特に腰痛や転倒など作業行動に起因する労働災害防止の取り組みを実践しましょう。
- 利用者に安全・安心・快適な環境を提供するためには、施設で働く方の安全や健康を保つことが大切です。